

植物と人々の博物館メールマガジン

第 129 号 2025 年 12 月 1 日発行

~~~~~



大きなカリンが 11 個、ユズも 200 個ほど、大きめの実が生りました。酷暑の成果でしょうか。紅葉も見事です。保育園児たちが武蔵野公園の秋を駆け回っています。サッカーや野球少年、フリスビーやスケートボードの若者たちも、ラジオ体操や犬の散歩の老若男女が落葉の陽射しを慈しんでいます。もうすぐ冬です。

植物と人々の博物館は先達たちから引き継いだ社会的共通文化財である植物標本、民具、文献資料や書籍を整理して森とむらの図書室を充実し、連携しているタイ・日本自然クラブの展示も再開しています。ご利用くださり、整理も一緒に手伝っていただければありがたいです。できることなら、将来、これらの資料は小菅村内に公共の場所を確保して、広く公共知的財として公開し、ご活用願いたいです。

環境学習原論は自分の頭で考え、堅実に未来への希望を描いています。偉い人たちが「地球沸騰時代」などと脅し文句で日々との心を絶望へと誘導するのは止めてほしいです。

## 1. 植物と人々の博物館

さく葉標本を選別し、民具、書籍の整理を行っています。公共の知的財産として活用していただけるように、ご協力いただけると嬉しいです。資料など閲覧したい方はご連絡ください。できるだけお付き合いします。

### 主な作業：

- ①国内外の書籍 8000 冊：農林業、雑穀、料理、民族植物学、環境、人類学、考古学、教育学などの資料・書籍の整理、特にインドの関連書籍が多い。
- ②日本、インド、タイなどの民具の整理
- ③展示の企画：タイの民具の展示、自然文化誌研究会（学大探検部）50 年記念記録
- ④インド亜大陸、中央アジア学術調査隊収集の植物腊葉標本整理、台紙に貼る作業など、

### ○報告

1) 50 周年記念企画の 1 つとして ZOOM 座談会をしました。その後、動画の視聴希望がありますので、公開します。 <http://www.ppmusee.org/event/pg1646.html#2>

### ○予定

#### 1) 電子書籍：

自選集第 5 巻概要版の改訂をしました。日英文要約版（第 5 巻雑穀の起原と伝播；Vol.VII, “Essentials of Ethnobotany on Millets ~Their Origin and Dispersal

around Indian Subcontinent”）では、穀物に関する新たな栽培起原と伝播仮説および未来への提案をします。海外大手出版社からお勧めがありましたが、やはり自由な作家のままでいようと、辞退しました。ただし、現在、英文校閲を受けていますので、それをいずれ公開します。同時に、自選集 III『日本雑穀のむら』の補足として、40 年前の北海道調査における開拓農家やアイヌ民族の人々などとの対談テープの文章化を進めています。また、自選集 VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』や句集に順次新作を追加しています。童話や小説書きも再開したいです。

**民族植物学ノオト第 19 号**は 2025 年末をとりあえず原稿申し込み締め切りとします。どなたでも、ぜひご寄稿ください。

第 18 号は下記です。 [http://www.ppmusee.org/\\_userdata/oto\\_No18.pdf](http://www.ppmusee.org/_userdata/oto_No18.pdf)

**2) 公式 HP：植物と人々の博物館** <http://www.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>も国会図書館インターネット資料収集保存事業 (ndl.go.jp)で毎年 1 回 7 月 20 日頃に収録されています

(すでに 6 回登録済)。<https://warp.da.ndl.go.jp/waid/31424> すべての記事は無料で公開しています。国会図書館の文献録には博士論文や科学研究費報告書などまでが集成されており、ここに保存されている記事は記録として残りますので、とてもありがたいです。無料で皆さんに読んでいただけます。

**3) 森とむらの図書室**への寄贈など 現在所蔵する書籍 (8000 冊) や文献を整理して、ご利用していただけるように、蔵書リストと閲覧書架を整理充実しています。国内外の調査時におけるフィールド・ノオト、スライド 35mm など、こちらに置きます。リスト作りや番号貼りなど、ご協力いただけるとうれしいです。環境学習・保全関係、インド関係、民族植物学、図鑑、世界の料理書、雑穀などの文献、森林政策 (財・森とむらの会の全資料) などに特色があります。

民族植物学関連の資料を先学からお預かりしてきた植物と人々の博物館を受け継いで、継承してほしいです。ヒトがこの人新世に暮らしていくのに、いずれ再び無くてはならない知識・知能を支える大切な生業の資料であることが世間にもわかります。木俣文庫は来春には大方の配架をします。古典から新刊まで、国内外の良書が多くあります。

<https://www.milletimplic.net/forestvil/forestvil.html>

## 6) 雑穀栽培

簡単な栽培や加工、調理法などは下記にあります。不明なことがありましたら、メールください。

栽培法 [雑穀 ～とりあえずの栽培法 \(milletimplic.net\)](https://www.milletimplic.net/farmsklec8p.pdf)

[farmsklec8p.pdf \(milletimplic.net\)](https://www.milletimplic.net/farmsklec8p.pdf)

加工法 [雑穀類の加工方法 \(milletimplic.net\)](https://www.milletimplic.net/farmsklec8p.pdf)

詳細な調査記録は『日本雑穀のむら』『雑穀の民族植物学～インド亜大陸の農山村から』を検索してお読みください。7巻自選集の日本語ダイジェスト版は『穀物の起原と伝播』です。

上岩でも小菅でも、高齢の雑穀栽培者がいます。自立した誇り高い人生の姿に敬意を持ちます。視聴しているBSドキュメンタリー、イタリアの「小さな村」に出てくる村人と同じです。彼らは家族と地域社会を大事に、日々を暮らし、堅実な人生観を語っています。

## 7) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている1円玉からする任意募金をお願いしています。これまでにゼミなどの会場で多くの方々からのご協力をいただきました。ありがとうございます。将来に向けて、植物と人々の博物館へのご寄附あるいは整理作業のご協力を、よろしくお願いします。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。標本、民具、書籍などを社会的共通文化財として公共の施設で保存・公開するために、費目指定でご寄附をいただくとありがたいです。今のところ、上野原市西原のびりゅう館に森とむらの会文庫を一括貸し出しています。他に数名の方に、まとめて関係資料を貸し出しています。

これまでに、多くの方にご寄附を頂き、書架を購入できて、感謝しています。

郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

## 2. 自然文化誌研究会（学大探検部：東京学芸大学自然文化誌研究会冒険探検部）

### ○報告

1) 50周年記念誌発行 300部、とても良いものができました。入手ご希望の方は、事務局にご連絡いただければ、送料込み1500円でお送りします。

[npo\\_inch@yahoo.co.jp](mailto:npo_inch@yahoo.co.jp)

2) 10月15日：「環境学習過程ELF」と日本の教育を考える打ち合わせ

3) 11月15日：小金井市環境フォーラムへの協力、環境座談会で、贅田隼人さんが「小金井ちえのわ農学校／小菅冒険学校」について話題提供しました。30名余りの参加者、INCHからも6名参加、皆さまから野外活動体験についてお話しただけて、とても良い集まりでした。

<https://www.milletimplic.net/university/inch50aniv/koganeiefo25fin.pdf>

4) 11月19日：冒険学校（五日市）の振り返り

### ○予定

1) 12月17日：冒険学校（大滝）の振り返り

2) 12月26～28日冒険学校 真冬のキャンプ

3) 2026年夏頃に、新潟国際情報大学の井堂さんのご提案で、Scottの『反穀物の人類史 Against the Grain』などのZOOM学習会を行う予定です。

### 3. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全 NP04 団体と 3 個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの 12 世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。アーカイブは次にあります。

<https://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

自然や生業について現場で学ぶことを勧めたいです。加えて、各団体による環境＋観光＋教育産業が実現できることを期待します。時代は移行していきます。第四紀人新世の自己家畜化に抗いたいです。学校教育歴よりも、個人学習履歴が心の構造と機能の生涯発育に重要です。

民族植物学講義資料をカリキュラムにして体系的に公開します。植物の種子、保存方法、栽培、加工、調理、民俗、生物多様性、文化多様性の保全、生業を学ぶ環境学習原論、第四紀人新世に暮らす中での希望を探す、などを参考教材（社会的共通財）として用意します。実技は各団体の講座を受けてください。

#### 小金井環境市民会議

毎日、散歩に行っている場所ですので、次のサイトを作り、日々の彩をお伝えします。小金井環境市民会議のサイトにリンクしてもらいます。

<https://www.milletimplic.net/weedlife/musashinoopark.html>

#### ○報告

##### 小金井市環境フォーラム 11 月 14 日～16 日

自然文化誌研究会も協力団体として、活動紹介展示、11 月 14 日～16 日、A0 ポスター 1 枚を展示します。皆様からお貸しいただいた写真をまとめました。冒険学校、植物と人々の博物館、ちえのわ農学校、タイ環境学習、茶摘みの会などです。2025 年の活動紹介をしました。

- 1) 企画会議 10 月 7 日 10:00～。小金井市役所。10 月 31 日 13:00～
- 2) 環境座談会・カフェに企画参加、11 月 15 日 15:00～17:00 座談会、17:15～19:15 カフェ。30 名余の参加でした。とても内容のある座談会になりました。

##### 3) 新潟国際情報大学異文化塾 豊穰なる主食の世界

11 月 1 日、中東・北アフリカ地域の多様な主食 井堂有子（新潟国際情報大学教授）

11 月 8 日、インドの雑穀と豆類が織りなすカラフルな世界 木俣美樹男（東京学芸大学名誉教授）。28 名の参加がありました。

<http://www.milletimplic.net/university/inch50aniv/25indiafoodcul.pdf>

11 月 22 日、食卓の「こころ」～東南アジアにおけるお米のお話 ジュリアス・マル

ティネス（新潟国際情報大学准教授）

12月6日、ライムギとスパイスの世界～北欧・バルト、東欧、黒海沿岸に広がる豊かなパン食文化 リューデ・アンナ（新潟国際情報大学准教授）

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

## 植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：

館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男（東京、専任研究員、担当運営委員）、西村俊（石川、担当理事）、井村礼恵（東京、担当運営委員）、川上香（長野）、渡辺隆一（長野）、Sofia M. Penabaz-Wiley（メキシコ）、伊能まゆ（ベトナム）、大澤由実（神奈川）、Weber（アメリカ）ほか

公式 HP：自然文化誌研究会/植物と人々の博物館 <http://www.npo-inch.ppmusee.org/>

事務担当幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

民族植物学関係 HP：生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>

エコミュージアム日本村／ミュージーズ研究会（山梨県小菅村）：代表 亀井雄次（山梨小菅村）

自然文化誌研究会：代表 中込卓男（東京）、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） [npo\\_inch@yahoo.co.jp](mailto:npo_inch@yahoo.co.jp)

伝統知顧問：守屋秋子（小菅村）、岡部良雄（丹波山村）

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

## 写真：

50周年記念パーティに出した料理；キビおこわ（波照間産）、クスクス、プロヴ、ジェノベーゼ・パスタ、チキンカレー、ほかにヒエ粥（二戸産）。

野川に佇むアオサギ。



環境フォーラムの展示





紅葉とキダチチョウセンアサガオのピンク色

